



第5回 高校生との意見交換会を開催

令和2年2月9日（日）、5回目を迎える高校生との意見交換会を飛騨高山高校、高山工業高校、高山西高校、斐太高校のご協力のもと、生徒25名の参加をいただき開催しました。

高山市議会では、市民の多様なご意見を市政に反映させるため、様々な意見交換会を開催しており、高校生との意見交換会は、これからの社会を担う高校生のフレッシュな考えをお聞かせいただくとともに政策の起点として活用すること、議会をもっと身近に感じていただくためのきっかけづくりをすることを目的としています。

第1部は高校生の意見発表会、第2部は市議会議員との意見交換会です。今号は第2部の意見交換会を特集します。第1部の意見発表会の様子は、市議会ホームページからご覧いただけます。

第1部の様子は、
市議会ホームページ
からご覧できます。



飛騨高山高等学校 岡本キャンパス



生徒 まち歩きをしていると、少し前まで開いていたお店が閉まっています。このままではどんどん衰退してシャッター商店街になってしまいます。商店を維持するために何をしていますか。

議員 中心市街地は、空き家が増えるとともに高齢化率も高い地域です。産業の集積が変わってきている中で、観光客の消費額を取り込んで維持しながら観光まちづくりを進めるには大きな問題と捉えています。

生徒 伝統工芸品が減っているのではないですか。

議員 市では原材料や後継者に補助をしています。これまでは伝統ある工芸品が主となっていますが、現代にマッチした製品が溢れるまちにしていくことや若い後継者を増やす努力をしていかなければならないと考えています。

飛騨高山高等学校 山田キャンパス



生徒 荘川町六廐に計画されている産廃処分場は断固反対であり計画阻止してください。自然環境が素晴らしい荘川町で農業をしたい。荘川町を守ってください。

議員 市議会も許認可権者の県に対し、産廃処分場の設置を許可しないよう意見書を提出しています。今後も注意深く見守っていきます。

生徒 就農の支援制度について、情報発信をもっと積極的にしてほしい。

議員 新規就農支援には農家の後継ぎにも適用できる内容もあります。情報が伝わるよう努めます。また、段階的に規模拡大をしていくことや、買い手に対し作物のPRをすることも大切です。

生徒 中部縦貫自動車道の建設が進み、山々を削り道が造られていて、自然環境や生活環境への影響が心配です。

議員 影響を少なくすることは大切です。工事から発生する残土利用として、一例ですが、圃場の整備により新規農地を確保するなど新たな活用も考えられます。

高山工業高等学校



生徒 昨夏、実家を空き家にせず活用しようと思い、民泊にするプロジェクトを実行しました。費用は掛かりますが、様々な企業から資材提供などの協力を得て完成しました。空き家を民泊にしようとする活動への支援や補助はありますか。

議員 空き家を移住者の方に活用してもらい定住をとった取り組みへの補助制度はいくつもあります。空き家にしないための制度は多分ないのではないかと。住んでいる人が空き家にしないよう新しい活用を考えて実行することに関して頭が回ってなかったかもしれません。行政へも投げかけていきたいと思います。空き家を作らない、空き家を活用するということの2段階で考えていかないと空き家は増えていくばかりなのかもしれません。

生徒 英語力向上に向けた市の取り組みはありますか。

議員 もちろん英語は大切ですが、日本や高山の文化などを伝えるには日本語の力が基礎となると考えます。必要に迫られて語学は上達することもあり、意欲の問題であり制度に頼ることでないのではないのでしょうか。

高山西高等学校



議員 なぜ、今回のテーマとして空き家問題を取り上げましたか。

生徒 隣に空き家があって、移住者の方が住んでいます。高山市にも多くあると思い、調べてみました。

議員 発表において指摘されたように、市のホームページが見にくいとか、情報が調べにくいとの意見があります。若い人の立場に立った情報発信のために若い人に参加していただくことも必要であると考えます。

生徒 高山市では観光客の増加もあってホテルが増えています。今後、観光客が減った場合に利用されなくなる可能性もあると考えます。そうした時のホテルの活用について何か考えはありますか。

議員 そのような指摘については想定していませんでした。インバウンドで外国人観光客が増加し、ホテルが増えていることで高山市の観光産業に様々な影響が出ています。今後も国内観光客対策等を含め、観光産業の振興策を考える必要があります。

斐太高等学校



議員 高山を離れ、大学進学や就職されたのち、また帰ってきたいと思える高山市とは。

生徒 自分と同年代の人たちの活動が活発なまちの方が自分としては楽しみやすいと思います。何か物事（市のこと）を決めるにしても、全て高いところでの話し合いで自分たちの生活に結びつかないと感じます。自分たちの世代の人たちがもっと活躍できる場になると良いです。

生徒 働き手や働き口が少ないです。着目すべきなのは、文系よりも理系、文系の方は起業できる方も多く自分で生み出していくことができますが、理系は病院や研究の場所といったところがなければ帰ってこれないと思います。斐太高校でも、半分ほどは理系で、その半分が病院などの働き口がないということで、高山に帰ってこれないという状況があります。

第1部

意見発表ダイジェスト

第1部の意見発表は、高校生が日頃の生活で感じたことや学習で取り組んだこと、また、それらを通して感じた今後のまちづくりへの提案などをプレゼン。

高校生だからこそ、高校生ならではの視点で、活動や研究の成果を発表されました。

学校名	発表テーマ
飛騨高山高校 (岡本キャンパス)	キャッシュレス in 高山
飛騨高山高校 (山田キャンパス)	先進的な農業生産者を目指して！ ～農家の卵による3Sシステムの導入に向けた挑戦～
高山工業高校	高山デンバー 文化交流プロジェクト
高山西高校	空き家を身近な存在へ
斐太高校	「マップガチ勢」～世界中の人が食を楽しめる高山へ～

編集後記

これまでに高校生との意見交換会を5回実施してきました。

高校生世代との意見交換と学校毎の特色に応じた取り組み発表から感じとることは、高校生の体験による肌感覚から絞り出される確かな「事」に裏付けられた実態の把握に加えて、情報に溢れる生活環境に有りながらも、しっかりと情報を選択し、高校生からみれば、まだここが足りないと言える姿勢は、回を重ねるごとに研ぎ澄まされてきています。

議会は民意を吸収する目的で開催していますが、議会はこうした意見や考え方について、速やかに対策すべき内容を行政機関への「気づき」につなげることができるかが問われていると再認識しています。